

東 御 市 立 東 部 中 学 校



- (1) 学級数 26クラス
- (2) 生徒数 男子433名 女子391名 計824名
- (3) 職員数 64名
- (4) 学校紹介

※ホームページは、ただいま製作中。

東御市の中心部、長野県の東部に位置する。2004年4月1日の市町村合併に伴い、東部町立から東御市立に移行した。学区は東御市の中心部である田中地区・滋野地区・和地区・祢津地区など旧東部町の全域にわたるため、学校から遠い地域があり、一部の児童・生徒はバスにより通学している。生徒数が824人と、長野県内でも最大級である。

生徒数が多く、校舎を新築したため、学校の施設が中庭を囲むような形に作られ、とても広い作りとなっている。一部の教室にはエアコンがあり、太陽光発電施設、さらにはエレベーター（主に搬入搬出に使用・生徒は基本的に使用禁止）など、いろいろな設備が付いており、近代的な施設が整備されている。

本校の教育目標は、 一 以 貫 之

「人を大事に、物を大事に」であり、

○みがかれた知性

○豊かな心

○強じんな身体

の3つの姿の具現を目指している。



6月20日付 信濃毎日新聞より

放送委員会は、日頃の校内放送に力を入れている。4月の“部活動紹介”や、10月の“学芸発表会ハイライト”さらに、卒業間近の3年生を対象とした“アンケートリクエスト”など、放送委員による日常の番組制作がとても盛んに行われている。

特に、平成19年度放送委員会はその活躍が顕著で、番組作りの延長として出品した「水は世界をめぐる」は3月のKWNコンテストで、参加60校中、日本1位になった。さらに6月の世界コンテストにも出品され、世界グランプリを受賞することができた。

KWNは「キッド・ウイットネス・ニュース」の略で、子供ニュース(KWN)プロジェクトという。(財)松下教育研究財団が、小・中学校におけるビデオ作成の支援を行っている。

年1回、コンテストが行われ、優秀作品が表彰されてきた。2004年からは国際部門賞も設けられ、今回の世界大会には24カ国626校が参加した。

「水は世界をめぐる」は、身近な水不足の問題を、郷土の水利慣行と、日本の食糧自給率と仮想水を関連づけて考えさせる内容である。そして、いろいろな視点で水不足を考えていくうちに、“生徒達が、世界の環境問題を自分自身の問題としてとらえるようになった変容”が一番のテーマである。

（５）大会テーマの受け止めと研究のねらい

本校では自分から進んで問題を解決していく生徒の育成を願って、合言葉を「ひとりになれる ひとつになれる」とした。この合言葉を具現すべく、毎日の教育活動に取り組んでいる。

本年度は、特に基礎的・基本的な学力の定着を願うとともに、「生徒の意見交流」や「見返しの場」づくりを大切に授業作りに取り組んでいる。

公開を予定している道徳では、教師の惚れ込んだ力のある資料による授業実践を積み重ねている。中でも視聴覚機器を使った授業としては、NHK教育テレビの「みんな生きている」や、市販のDVDなどを使っての授業実践を行っている。

また、お互いの考えを聞きあうことのできる場の設定にも力を入れている。50分の授業の中では、聞きあうことのできなかった一人ひとりの考え（輝き）を、後日学級通信等で生徒や保護者にも紹介するように心がけている。

（６）日常的な活動

○システムの概要

現在、コンピュータ室にデスクトップパソコンが40台設置されている。このパソコンは、科学部情報処理科が、毎日の部活動で使用している。また、3学年の総合的な学習の時間の中に「情報」という教科を位置づけ、修学旅行記をプレゼンテーションソフトを使って発表するなどにも使用している。

この他にも、ノート型パソコン59台、また各研究室や職員室にもデスクトップパソコンが設置されている。

○ネットワーク環境

校内は、有線で結ばれ、どこにいてもほとんどの場所でネットワークにつながることができる。教室にもアクセスポイントがあり、ノート型パソコンを使いインターネットに接続し、授業に用いることもある。

○プロジェクター、実物投影機

プロジェクター7台は、全校または学年集会での頻度が高い。文化祭の委員会の活動報告なども、ほとんどがプレゼンテーションソフトを使った発表である。

また、実物投影機は1台あり、主に理科の授業で生徒の

発表物を映像化したり、教材を拡大したりすることに用いられる。

○デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ

デジタルカメラ学校用10台は、主に職員が使用している。学校行事や儀式のときの使用頻度が高い。デジタルビデオカメラ3台は、主に放送委員が使用している。お昼の放送の企画番組制作や文化祭の記録、さらに昨年、一昨年は「KWN」に出品する作品の制作にも使用した。

○スキャナー、大型ポスタープリンターなど

スキャナー1台、大型ポスタープリンター白黒1台、カラー1台は、教師が学習掲示資料に活用している。さらに、電子黒板も2台設置されている。

（７）研究を推進してきたの現時点での課題

東部中学校での視聴覚機材を使った道徳の授業実践は、「ビデオを見せて感想を書く」と言ったパターンが多かった。そこで、導入のあり方を考えたり、感想の書かせ方、発表のさせ方を工夫したりと研究を進めてきている。

10月の視放研上田東御大会では、NHK教育テレビの「みんな生きている」を教材として授業を展開しようと考えている。

事前授業として同番組の“かがやくメロディ”を扱った。生徒は真剣なまなざしでビデオを視聴し、主人公の輝きをもって生きる姿に感動していた。15分番組を50分の授業の中に組み入れるため、後半の意見交流の場をどうしたらいいのか。また、より良い導入のあり方などが課題として残った。

しかし、資料自体に力があり、参観者の先生方の中に、授業を見た後さっそく授業実践をする姿も見られた。

多くのクラスで、「みんな生きている」やその他のビデオ番組などを資料として授業実践を行い、生徒の様子を見ながら展開を修正して、10月31日を迎えようと考えている。